

伊能忠敬が描いた日本展とデジタル画像の研究会のお知らせ

まずは、臼杵市立図書館での研究会は、38名もの参加者を得て盛会の内に無事終了いたしましたことをご報告申し上げます。詳しい報告は、国絵図ニュース第6号で行ないたいと思います。

さて、徳島大学の平井松午先生より、徳島県立博物館の「伊能忠敬が描いた日本」展と日本地理学会秋季大会での高精細デジタル画像データの公開と研究発表についてお知らせと紹介が参りました。地理関係の方は、すでにご承知の方も多いかと存じますが、興味ある展示と研究会ですので臨時にニュースを発行して皆様にお知らせ申し上げます。従って、研究余滴などのコーナーはお休みに致します。ご了承下さい。

徳島大学附属図書館所蔵絵図の高精細デジタルアーカイブ

徳島大学総合科学部 平井松午

絵図や文書類のデジタル化は、史料保存の点で優れているのみならず、画像処理による新たな分析手法の展開も期待されている。徳島大学附属図書館では200点余にのぼる絵図を所蔵しており、平成9年度より貴重本絵図や大型絵図についてデジタル化を進めている。平成9年度は学内経費で6点の絵図（阿波国・淡路国絵図など）、平成10年度には文部省科研費を受けて、伊能図10鋪を中心に新たに21点の絵図についての画像データを作成した。

絵図の画像データについては、近年その関心が高まり、すでに市販されているデータもある。しかし、なかには次のような問題を抱えている。①購入者のハードウェア環境に合わせるために、データの容量が数MB～数十MBと小さく設定されており、その結果、絵図中の文字や記号などが鮮明に読めないものもある。②画像の多くは分割撮影された部分画像を統合して作成されるが、統合時に歪みや不接合個所がみられる。③また、鮮明な拡大画像については、あらかじめ設定された絵図中の一部の分割画像のみしか呼び出せず、見たい絵図の範囲が複数の分割画像にまたがってしまう場合がある。

この結果、われわれは、これまで通り、見たい範囲の絵図の部分カメラを持って再度写しに行かねばならなくなる（研究とはいえこの結果、絵図の劣化がまた進む）。絵図のデジタル化が「貴重資料の保存」と「研究者への便宜」を兼ね備えているとすると、これまでのデジタル絵図画像の多くは、こうした要望を完全にはクリアしていないのである。

そこで、徳島大学附属図書館では、この両方の目的を満たすべく（欲張りである）、大容量の高精細画像データを作成することにした。当初は1枚の絵図の画像データ容量を15OMB程度に設定したが、平成10年度にはこれを500MB～2GBにあげて作成した。2GBレベルの画像データの場合、Photoshopなどのソフトでの立ち上げや閲覧は難しく、現在はGigaviewというソフトでこれらの絵図画像を動かしている。これにより、絵図中の見たい個所をクリックすれば、どの範囲でも自由に速やかに拡大縮小でき、米粒よりも小さな文字で書かれている伊能図の地名も鮮明に読みとることもできる。まさに「魔法の杖」ではあるが、やはり問題も少なからずある。

パンフレットを同封した、開催中の企画展「伊能忠敬が描いた日本」の会場では、こうした画像データをもとに制作したプレゼンテーションを流しているが、きわめて評判がよい（子どものオモチャにもなっている?!）。ぜひご覧いただきたい。

なお、今回の画像データの作成目的と方法、問題点などについては、日本地理学会秋季学術大会（徳島大会、10月9・10日）にあわせて、下記の日時で、デジタル画像を作製した業者の小野 博氏（コンテンツ株式会社、〒770-0055 岡山市西崎1丁目10-1 TEL. 08 6-255-7848）と平井が画像データを提示しながら共同発表することになっている。

日時：10月10日（日）15～17時

会場：四国大学（教室は当日掲示）＜別紙地図参照＞

共同発表「徳島大学附属図書館所蔵絵図の高精細デジタル画像データ」

主催 日本地理学会地籍図研究グループ・同国立地図学博物館設立推進委員会

阿波国絵図や伊能図など27点の絵図については徳島大学附属図書館ホームページ（<http://www.lib.to-kushima-u.ac.jp/top.html>）に「貴重資料高精細デジタルアーカイブ（WWW）」を立ち上げ、全体画像や部分拡大画像（圧縮データ）、書誌的データ、ならびに絵図解説の提供を行っています。ご覧下さい。ただし、画像容量は小さくしており、画像の拡大縮小はできません。



各地の国絵図と関係史料

周防・長門国一正保期の場合一

喜多 祐子

周防・長門両国の正保国絵図（以後、正保図）は、正保元（1644）年12月16日に幕命を受け、絵図元である萩本藩藩主の毛利秀就により2舗ずつ続々と作成され、慶安2（1649）年8月21日に1舗を紅葉山文庫へ、同年11月20日にもう1舗を勘定所へと提出された。正保期には、国絵図と郷帳の他に、城絵図と道帳もあわせて調整した。この時に献上された正保図は現存していないが、その控図が山口県文書館に所蔵されている（史料5）。史料15によると、正保図の控図を萩藩に置くことが記されており、この図が伝存してきたものと思われる。



正保図は箱入りで、その中に同時作成された正保郷帳（史料8、9）と道帳（史料10、11）も収められている。しかし、正保図が提出された時には郷帳と道帳は提出されていなかった（史料15）、これらが完成してから後に箱に収められたのであろう。ちなみに、城絵図は同箱になく別置となっている。

正保図の編纂にかかわる史料は13～19にみられる。

史料13・15は、萩藩の江戸留守居役であった福間彦右衛門就辰により記されたもので、前者はその筆者の名をとって福間帳（牒）と通称されている。また、史料14は福間帳の、史料19は史料15の中から重要な部分を抜き書きしたものである。これらの記録は、幕府と萩藩との交渉の記録が散見でき、正保図編纂の過程が知られる基本的な史料といえる。

史料16の「大江（毛利）四代實録」とは、毛利元就、就元、輝元、秀就四代の功績を明治期にまとめたものであるが、秀就の項に正保図に関する記録がみられる。

史料17は、二つの文書からなっている。一つは、幕府が萩藩に長府・下松藩領を区別して描写することを求めたことに対しての萩藩の意向を記した幕府宛の覚書で、一方はそれに対して幕府総責任者であった井上政重の返答書である。この結果、防長が毛利の一括所領であるにもかかわらず正保図の一国仕立てが守られ、さらに支藩も色分けされた。

史料18は、井上政重が藩領区分をしないように毛利秀就が出羽国山形藩主の松平直基に取り計らってもらうのを依頼した際の直基の返答書である。

以上、まだまだ研究の途中段階のため、管見していない正保図に関する史料があると思われるので、宜しくご指導のほどをお願い申し上げます。

○参考文献

川村博忠『江戸幕府撰国絵図の研究』古今書院、1984、419～414、419～427頁。

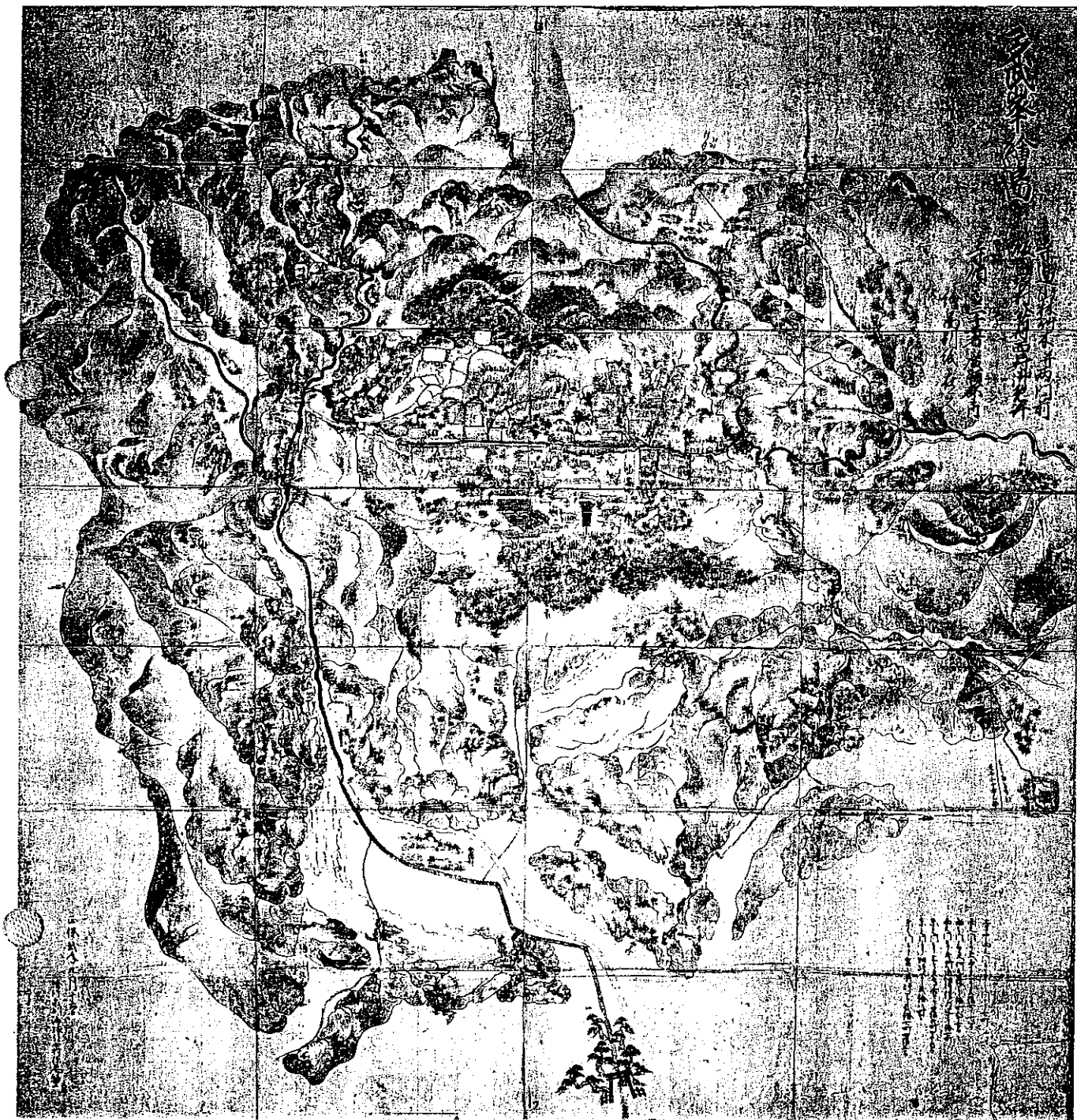
山口県文書館編『防長の古地図』山口県文書館、1984。

岩国徴古館編『岩邑年代記』岩国徴古館、1984、49頁。

田中誠二「萩藩の本・支藩の関係をめぐって」山口県地方史研究61、1990、14～28頁。

請求番号	題名	所蔵先	年代	点数
1	周防国廣長国絵図	宇部・郷土資料館		1
2	軸物類281	山口県文書館		箱入1
3	廣長国絵図 周防国（複製）	宇部・郷土資料館		1
4	軸物類281	山口県文書館		箱入1
5	毛文/58絵図238	山口県文書館	慶安2	箱入2
6	毛文/58絵図246	山口県文書館	元禄12	箱入2
7	毛文/58絵図244	山口県文書館	天保8	軸物11
8	毛文/58絵図2381	山口県文書館	（慶安2）	（箱入1）
9	（毛文/58絵図238）	山口県文書館	（慶安2）	（箱入1）
10	（毛文/58絵図238）	山口県文書館	慶安3	（箱入1）
11	（毛文/58絵図238）	山口県文書館	慶安3	（箱入1）
12	複写資料202	山口県文書館		1
13	毛文/13日記4	山口県文書館	寛永10～承応元	35
14	毛文/9諸省19	山口県文書館	寛永10～承応2	2
15	毛文/55日記1	山口県文書館	寛永10～承応	箱入11の内1
16	毛文/57御什書2/実録類3	山口県文書館	明応6～慶安4	35
17	毛文/9附政26	山口県文書館	正保3	2
18	毛文/3他家180-（2）	山口県文書館	正保3	1
19	毛文/25吉川事28	山口県文書館		1

表1 山口県に現存する周防・長門両国国絵図と正保図関連諸史料
注）宇部・郷土資料館は宇部市立図書館所蔵郷土資料館の略



多武峯絵図（談山神社蔵）[184.2×175.7]
 多武峯 談山神社を中心に特に関係の深い山麓の村々が描かれている。正保二年（1645）の絵図。

<徳島県立博物館への道>

◎JR徳島駅から徳島市営バス・徳島バス利用（約25分）

※平日はともに1時間に1本程度ととても不便です

※徳島バスは直行便ですが、徳島市バスは市原バス停で乗り換えます

※タクシーだと1500円くらいです。

◎JR牟岐線文化の森駅から徒歩（約20分）

◎無料駐車場もあります。

<四国大学への道>

4. 大会会場および交通案内

徳島へは飛行機（東京、名古屋、大阪、福岡から）、列車（高徳本線、徳島本線）、バス（東京、大阪、京都、神戸から）、船（東京、大阪、和歌山、北九州から）の便があります。

・徳島駅から四国大学へ

徳島駅前広場の「徳島バス」1番乗り場から路線番号21, 22, 23, 24, 27, 33, 34, 2番乗り場から路線番号37, 38の鳴門方面その他に行くバスが出ています。吉野川橋を渡り最初のバス停「四国大学前」で下車します。所要時間は15分程度です。バスの本数は、土曜日午前8時台7便、9時台13便、10時台13便（日曜日はそれぞれ7便）です。また、「徳島市営バス」7番乗り場より「四国大学前」を経由する路線番号14（川内支所行き）が1～2時間に1本の頻度で出ています。バス料金は210円です。タクシーの料金は1,500円程度です。

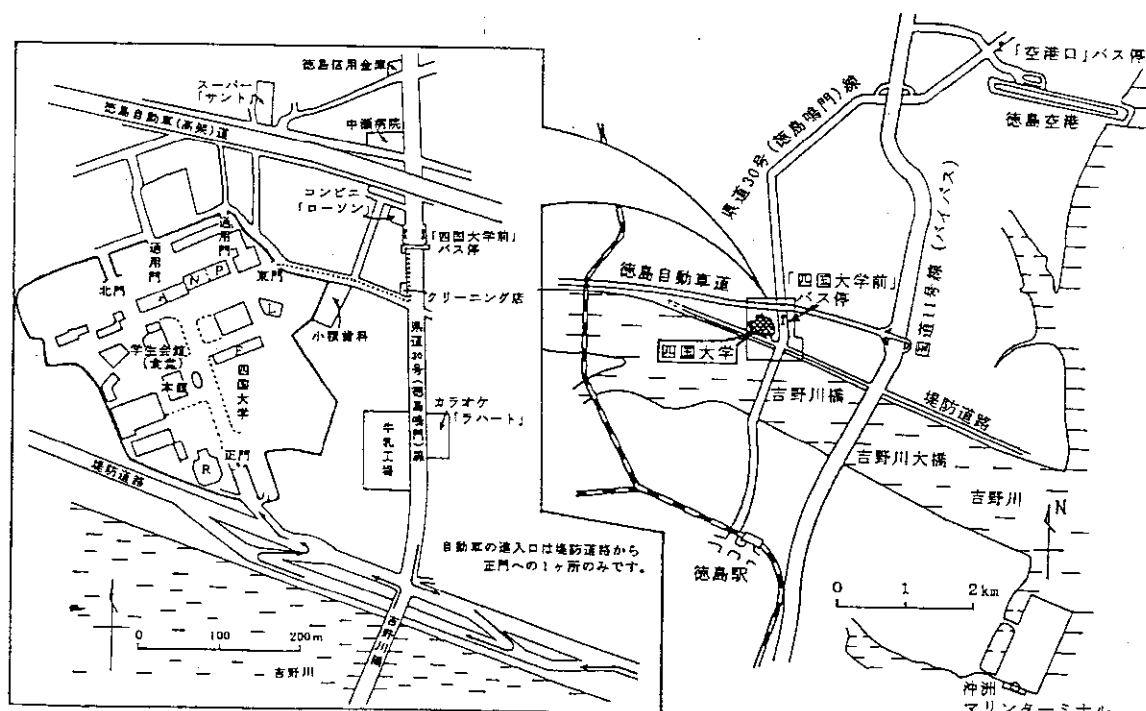
・徳島空港から四国大学へ

空港から徳島駅行き空港バスが出ていますが、四国大学前は経由せずバイパス道路を通りますので、空港からはタクシー（料金は3,000円程度）が便利です。ただし、ターミナルから歩いて約4分の「空港口」バス停（空港ターミナルまで入ってくるバスは1日数本のみ）から、「四国大学前」を経由して徳島駅に行く路線バスに乗ることができます。頻度は1時間に4本程度です。「四国大学前」までのバス料金は430円です。

・沖洲（高速船）マリンターミナル、フェリーターミナルから四国大学へ

船で徳島に着いた場合は、バスで徳島駅にいったん出してから、四国大学行きのバスに乗り換えます。タクシーの場合、マリンターミナルから四国大学まで2,500円程度です。

受付 30周年記念館（N館）1階ロビー

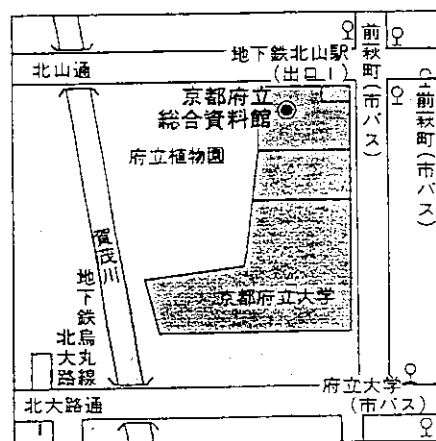
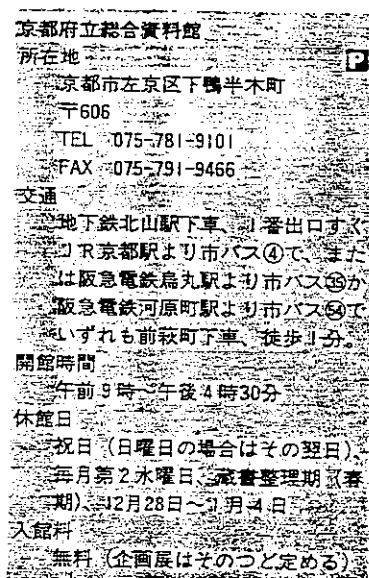


京都府立総合資料館（京都市左京区下鴨半木町）の国宝「東寺百合文書」は夙に有名であるが、105点に及ぶ多数の国絵図が所蔵されていることはあまり知られていない。

その内容は、おおまかに3種に分けられる。その1は、明治初年に現在内閣文庫に所蔵されている松平乗命所蔵本を書写したものである。2つ目は、いわゆる手書きの大型絵図で、伊丹市史絵図編が正保撰津国絵図を、横田冬彦によって正保丹波国絵図が紹介されたが、それ以外は未だ検討されていない。さらに3群は、木版刷りの国絵図となっている。

言うまでもなく注目できるのは、2番目に掲げた手描きの大型国絵図である。正保図の摂津、丹波、元禄図の信濃、参河、若狭、作成年次不明の遠江、美濃、尾張、越中、能登、加賀、越前、伊勢、志摩、伊賀、近江、大和、紀伊、山城、河内、和泉、丹後、但馬、播磨の24国もの図がみられる。近畿地方から中部、北陸地方を網羅しておりきわめて注目される。これらの国絵図の伝来は不明な点が多いが、京都府総合資料館には京都所司代をはじめとする旧幕府関係文書（京都府の旧1号書庫所蔵）が所蔵されていることから、元来はこれらと一緒にあった可能性が高い。これだけ広い地域の大型国絵図が一所蔵機関にあるのは、内閣文庫、東京大学南葵文庫について日本で3番目の規模と思われる。

作成年次の不明な国絵図が多く、研究の必要性がすこぶる高い。大型国絵図のために、閲覧室での公開は行なわれていないのは残念であるが、展示室が休室の場合は閲覧も可能である。



本年度の会費を未だお納めいただけていない方は、至急お支払下さい。2000円です。

編集後記

●今年は、9月も半ば過ぎてもあまり秋の気配が感じられません。突然のふってわいた台風にビックリ。皆様の地域では、被害はなかったでしょうか。

■小さい会ですから機動力を活かして、速報のニュースを出しました。「あまりがんばり過ぎるとバトンタッチした人が大変だからたまには薄いものも出してね。」という諸兄からの暖かい言葉に甘えました。お許し下さい……。それにしても投稿原稿が欲しい訳。

《ニュース編集担当：磯永和貴》

〒611-0023 京都府宇治市折居台1-14宇治市歴史資料館内

TEL0774-20-1311 FAX0774-21-6800